

No.	作品名		件数	寸法(cm)	制作年代	図版	解説
1	定窯白磁陶片 (ていようはくじとうへん) (小山富士夫氏採集)	SHARD, white porcelain, Ding ware (Collected by Mr. KOYAMA Fujio)	1	残形12.0	北宋時代		小山富士夫が自ら定窯窯址で採集した破片を割って塚本氏に贈ったもの。1948(昭和23)年頃、鎌倉の小山宅でのことでした。刻花技法による蓮花文が施された典型的な北宋時代の優品です。この陶片の断面から素地や彫り、釉薬、焼成方法など、多くを学ぶことができたことでしょう。
2	白磁印花双魚文輪花鉢(はくじいんかそうぎよもんりんかばち)	LOBED BOWL, white porcelain with impressed design of paired fish	1	高9.7、口径23.8			口縁部に切り込みを入れ、6弁状の花形に仕上げた鉢です。内側に走る各稜線は厳しすぎず、立体感を見せ、見込みに双魚を交互に表しています。塚本氏が北宋の白磁や青白磁を研究するきっかけとなったのは、1943年頃、小山富士夫が『陶説』(1941年1月号)に寄稿した「影青襟記(いんちんしゅうき)」に感銘を受けたことによるといいます。本作は白磁としては最初期の作品で、酸化焼成により釉色はやや黄味を帯び、全体に貫入が生じています。
3	白磁刻花牡丹文輪花鉢(はくじこっかぼたんもんりんかばち)	LOBED BOWL, white porcelain with carved peony design	1	高8.5、口径24.2、底径6.8			口縁部に切り込みを入れ、6弁状の花形に仕上げた鉢です。刻花技法による牡丹文が流麗に施され、白磁の釉色は酸化焼成によりやや黄味を帯び、艶と潤いのある美しい質感を見せています。
4	白磁刻花水禽文稜花鉢(はくじこっかすいきんもんりょうかばち)	LOBED BOWL, white porcelain with carved waterfowl design	1	高9.2、口径20.2			轆轤(ろくろ)で鉢を成形した後、型打ちで形を決め、口縁部はヘラで切り落として7弁状の花形にしました。とても丁寧な技で、このように口縁を稜花状にする表現は定窯に見られませんが、口縁を斜めに面取りしたのは、定窯とは少し異なっています。見込みに大きな鏡を設け、その内面それぞれに鴛鴦(おしどり)のような鳥文や草花文を刻んでいます。

5	<p>塚本快示本人所蔵作品リスト</p> <p>白磁刻花草花文稜花鉢 (はくじこっかそうかもんりょうかばち)</p>	<p>LOBED BOWL, white porcelain with carved floral plant design</p>	1	<p>高9.1、口径20.2、底径6.5</p>			<p>作品4番と同じ技法で作られた鉢です。酸化焼成によりやや黄味を帯びた発色で、艶と潤いのある美しい質感です。見込みに大きな鏡を設け、その周囲に花文と葉文を交互に巡らせています。外面にも草花文が流れるように一周しています。こうした文様は定窯には見られず、塚本氏ならではの文様に仕上がっています。</p>
6	<p>白磁盤(はくじばん)</p>	<p>A SET OF DISHES, white porcelain</p>	5	<p>高2.0~2.2、口径9.8~10.0、底径7.5~8.0</p>	1981(昭和56)年		<p>印花による龍文(1点)と刻花による草花文(4点)が描かれた、小さな盤です。小形ながら定窯白磁の趣をよく備えています。酸化焼成による黄味をおびる潤いのある釉色は美しく、定窯風のもの、白いものがあります。極めて薄造りで、定窯に倣って口縁のみ釉薬をふき取り、伏せ焼きをしました。</p>
7	<p>白磁碗(はくじわん)</p>	<p>A SET OF BOWLS, white porcelain</p>	5	<p>高7.4~6、口径8.9~9.5、底径3.7~4.0</p>	1980(昭和55)年		<p>非常に薄作りの筒型の碗です。真っ白な胎土に黄味を帯びた釉色が、温かな雰囲気を出しています。さらに釉薬が下のほうに垂れることで生じた釉溜りは、透けて見えて玉のような美しさです。表面の所々に細かい貫入が見られます。1980(昭和55)年の第27回日本伝統工芸展への出品作品と類似しています。</p>
8	<p>白磁高足杯(はくじこうそくはい)</p>	<p>STEM CUP, white porcelain</p>	1	<p>高11.7、口径15.5、底径5.8</p>			<p>薄作りの足の高い杯です。酸化焼成による黄味をおびた釉色で、内面には口縁から流れ落ちた釉薬が釉溜りを作っています。バランスが取れたシャープな造形で、凛とした雰囲気です。</p>
9	<p>白磁唐草文香炉(はくじからくさもんこうろ)</p>	<p>INCENSE BURNER, white porcelain with scroll design</p>	1	<p>総高17.5、身径11.9、蓋径12.4</p>			<p>三足に丸い胴体をもつ蓋付の香炉です。やや青味を帯びた釉色は単なる青白色ではなく、温かみのある爽やかな味わいの作品です。青白色は柞灰(いすばい)と長石だけで発色させたといえます。蓋と胴体には牡丹風の唐草文が流麗に施されています。</p>

塚本快示本人所蔵作品リスト						
10	白磁刻花蓮弁鎬文水注(はくじこっかれんべんしのぎもんすいちゆう)	EWER, white porcelain with design of carved lotus petals and fluted pattern	1	総高22.3、総胴径25.4、口径6.0、底径6.3	1979年(昭和54)	 <p>水などの液体を注ぐ水注ですが、塚本氏の作では珍しい器形です。注ぎ口に中国景徳鎮を思わせる鋭い造形が見られ、胴体の鎬文は先端が蓮弁状になっており、定窯とは違う柔らかい感じに仕上がっています。蓋に三角状の高いつまみがついているのが特色で、近代西洋風の雰囲気を感じられます。</p>
11	白磁水指(はくじみずさし)	WATER JAR, white porcelain	1	総高19.6、総径12.0、底径10.6	1983年	 <p>筒形の蓋付きの水指です。青味を帯びた釉が、柔らかみのある美しさに発色しています。肩の部分をシャープに仕上げ、全体にバランスのとれた造形ですが、手取りがやや重くなっています。釉薬の流れを高台のところで意識的に留め、一部に釉溜りが生じ、清涼感のある作風を見せています。</p>
12	白磁刻花水禽文輪花皿(はくじこっかすいきんもんりんかさら)	LOBED DISH, white porcelain with carved waterfowl design	1	高4.5、口径54.3、底径34.5		 <p>轆轤(ろくろ)で皿を成形した後、型打ちで形を決め、口縁部は切り込みを入れて15弁状の花形にしています。やや黄味を帯びた艶と潤いのある美しい釉胎で、上がりの良い定窯風の作品です。見込みには鴨のような鳥や草花文を刻み、さらに外面にも3重の蓮弁文が丁寧に施されています。飽(かんな)等で素早く流麗な文様を彫る熟練した技は、定窯本歌に劣らないものです。</p>
13	白磁刻花牡丹文皿(はくじこっかぼたんもんさら)	DISH, white porcelain with carved peony design	1	高8.7、口径59.8、底径38.0		 <p>薄作りで上がりの良い定窯風の大きな皿です。やや黄味のかかった発色は艶や潤いがあり、磁胎も白く透明性が高くなっています。内面に大きく刻まれた牡丹文は、定窯とは趣を変え、繊細かつ大胆で力強い趣を与えています。塚本氏の作品は、温かみのある釉色に映えるこのような彫り文様の技に見所があります。</p>

	塚本快示本人所蔵作品リスト					
14	白磁刻花牡丹文梅瓶 (はくじこっかぼたんも んめいびん)	MEIPING VASE, white porcelain with carved peony design	1	高44.0、口 径9.5、胴 径20.4、底 径12.4、	1986(昭和 61)年	 <p>本作は、定窯から離れ現代のやきものとして新たに模索した、新感覚の作品です。口作りに模索の痕跡が見られます。口の形は大きいのですが、孔が小さくなっています。純白の磁胎と黄味を帯びた釉胎が、定窯とはまた違う温かみのある柔らかい釉調となっています。刻花技法により深く彫った部分には釉だまりが生じ、文様に濃淡が現れています。塚本氏74歳の作で、第33回日本伝統工芸展(1986(昭和61年))出品作品に類品しており、そのために試作したものかも知れません。</p>
15	白磁刻花花文合子(は くじこっかはなもんご うす)	COVERED BOX, white porcelain with carved flower design	1	高3.4、 径11.6		 <p>極めて薄手の合子で、透光性が高く、釉色も透明で潤いがあります。作品のみどころは文様があり、蓋の両面には蓮花文が、身の内面に魚文、外側には鴨が刻まれています。塚本氏の遊び心が見られる楽しい作品です。</p>
16	白磁刻花牡丹文輪花 碗(はくじこっかぼたん もんりんかわん)	LOBED BOWL, white porcelain with carved peony design	1	高6.4、口 径14.1		 <p>口縁部に切り込みを入れて、5弁状の花形に仕上げた碗です。非常に薄造りで、磁胎は透明性が高く、やや黄味を帯びる釉色は温かみを与えています。見込みに深く小さな鏡を設け、牡丹を大きく一輪咲かせました。さらに外面にも2重蓮弁を丁寧に施し、繊細な作行きを感じさせます。</p>
17	白磁刻花蓮花文輪花 碗(はくじこっかれんか もんりんかわん)	LOBED BOWL, white porcelain with carved lotus design	1	高7.0、口 径15.0、底 径3.7		 <p>作品No.16と同形の作品で、シャープな造形です。酸化焼成によりやや黄味の掛かった釉色は、温かみを与えています。見込みに蓮花を大きく一輪咲かせています。さらに外面にも3重蓮弁を丁寧に施しています。定窯とは異なる温かみのある洗練された作品です。</p>
18	白磁刻花蓮花文輪花 鉢(はくじこっかれんか もんりんかばち)	LOBED BOWL, white porcelain with carved lotus design	1	高8.9、口 径22.6		

19	<p>塚本快示本人所蔵作品リスト</p> <p>白磁刻花蓮花文鉢(はくじこっかれんかもんぱち) BOWL, white porcelain with carved lotus scroll design</p>	BOWL, white porcelain with carved lotus design	1	高14.6、口径30.2、底径12.2		<p>定窯に、底部を広く平らにした洗という器形がありますが、本作はそこに高台を付け、力のある存在感をみせます。胴体には刻花技法による定窯風の蓮花文が施され、口縁部は伏せ焼きをしてから銀製の覆輪(ふくりん)をかけました。大阪市立東洋陶磁美術館が所蔵する中国北宋の洗(重要文化財)をモチーフとして塚本氏が73歳のときに制作したものです。そのおりに、「美しいものを作る先人の心を受けつぎたいと励んで居ます」と述べており、一生をかけ白磁制作に挑戦してきた塚本氏の志がうかがえます。</p>
20	白磁壺(はくじつぼ)	JAR, white porcelain	1	高23.3、胴径22.6、口縁11.3、底径10.2		<p>ふっくらとした胴には素朴な存在感が感じられます。純白の素地に映える釉色は、定窯には見られない独自の白さがあり、モダンな味わいを醸し出しています。</p>
21	白磁梅瓶(はくじめいびん)	MEIPING VASE, white porcelain	1	高27.4、胴径14.4、口縁6.3、底径8.4		<p>口作りや胴体の曲線が流麗で、定窯には見られない独自性が現れています。裾に向かってすぼまる曲線は、底部でやや広がりを見せ、全体的にバランスの取れて上品な味わいです。さらに、酸化焼成によりやや黄味のある釉色は、柔らかく潤いに満ちています。</p>
22	白磁刻花牡丹文梅瓶(はくじこっかぼたんもんめいびん)	MEIPING VASE, white porcelain with carved peony design	1	高32.8、口径7.0、胴径17.6、底径10.1		<p>塚本氏の作品の魅力は、完璧とも言える造形と、刻花技法による大胆かつ繊細な文様にあるとされます。本作はその典型例のひとつです。ゆがみのない完璧な胴体に、躍動的な蓮弁文や牡丹文が刻まれています。温かみのある純白色に仕上がりに、しっとりした釉胎を見せる格調のある作品です。</p>
23	白磁刻花唐草文瓶(はくじこっかからくさもんぴん)	VASE, white porcelain with carved scroll design	1	高40.1、口径14.7、胴径23.1、底径11.4		